



第51回 氏放分連全女性のつどい

「いつまでもあると思うな!」をテーマにした講演。成田万寿美さんが朗読する「原子爆弾の被害者」の詩集「さかしてはいます」を、笑声力「の講師・成田万寿美さんが朗読する」という印象的な演出で記念講演は始まりました。

また、分科会終了後に行われた報告会では、育児休暇中に会社から解雇を言い渡されたようりテレビサビの組合員が、当初は近畿地区労組に加入して雇用の継続を勝ち取ったこと、その後ようりテレビサビの組合員に声をかけられて六名の加入者とともに自らもようり労組へ加入したことが報告されました。ようりテレビサビの長谷川さん、森内さん、大間さん、時武さんからは

「長く働き続けたいので組合への加入を決めました」と率直な意見が述べられ、放送局で働く構内労働者の雇用の安定と待遇の改善が急務であることがわかりました。



分科会② 成田万寿美さん

「おはようございます」と言い終わらないうちにパソコンの画面に目標を戻してしまふことありますよね? クッとこらえてプ



分科会⑤ 高橋信雄さん

「被ばく前後の爆心地を再現したパノラマや原子爆弾の模型の前で、原爆とはどんなものなのか? 北朝鮮の濃縮ウランのニュースを世界が注視するわけなどを伺うと、まさにあの日に起因する様々な問題が目の前に立ちあがってくるようだった。『被ばく』を生々しく体感する本館では、一

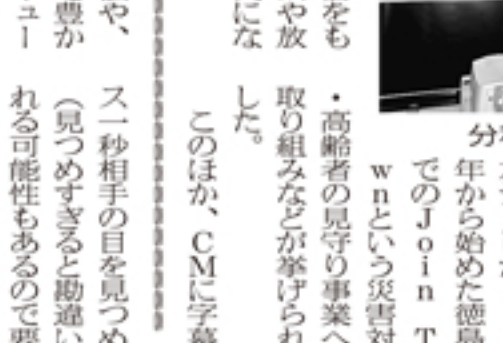
照明を落とした会場のスクリーンに映し出される焼け焦げた時計やカギ、帽子など。持ち主を失った遺品自らが原爆の凄まじさを語るアーサー・ビナードさんの詩集「さかしてはいます」を、笑声力「の講師・成田万寿美さんが朗読する」という印象的な演出で記念講演は始まりました。

アーサーさんは、米国籍生まれ広島在住歴二十四年の詩人。原爆を題材にしたラジオやテレビ番組で二度のギヤクシー賞に輝いています。言葉について人一倍のこだわりを持つアーサーさんが、今回のテーマである「平和の尊厳」を、言葉」という切り口で我々に語ってくれました。

「『ピカ』を使うなら、責任をも引き受けること」自分のこととして考えているかどうか。加害者の立場にならないこと。原爆についても然り、昨今は「再稼働」ではなく「運転再開」という、一見ポジティブな言葉にすり替えられている。遠く離れた東京ではなく広島にきたからこそ忘れかけていた戦争の悲劇を肌で感じる事ができました。

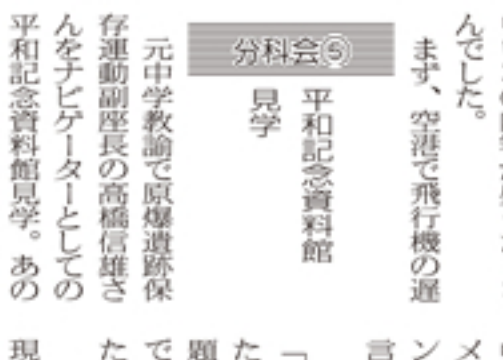
元リクルート社員でフリーキャスターに転身、広島ホームテレビでもキャスターを務めた成田万寿美さんにお話を伺いました。

「笑声(えこえ)力」とは、人を笑顔にする声のこと。言葉は飾れるが声は嘘をつけない」ということで、いかに相手に良い印象を与える声を出すか、



分科会② 成田万寿美さん

「おはようございます」と言い終わらないうちにパソコンの画面に目標を戻してしまふことありますよね? クッとこらえてプ



分科会⑤ 高橋信雄さん

「被ばく前後の爆心地を再現したパノラマや原子爆弾の模型の前で、原爆とはどんなものなのか? 北朝鮮の濃縮ウランのニュースを世界が注視するわけなどを伺うと、まさにあの日に起因する様々な問題が目の前に立ちあがってくるようだった。『被ばく』を生々しく体感する本館では、一

「いつまでもあると思うな!」をテーマにした講演。成田万寿美さんが朗読する「原子爆弾の被害者」の詩集「さかしてはいます」を、笑声力「の講師・成田万寿美さんが朗読する」という印象的な演出で記念講演は始まりました。

アーサーさんは、米国籍生まれ広島在住歴二十四年の詩人。原爆を題材にしたラジオやテレビ番組で二度のギヤクシー賞に輝いています。言葉について人一倍のこだわりを持つアーサーさんが、今回のテーマである「平和の尊厳」を、言葉」という切り口で我々に語ってくれました。

「『ピカ』を使うなら、責任をも引き受けること」自分のこととして考えているかどうか。加害者の立場にならないこと。原爆についても然り、昨今は「再稼働」ではなく「運転再開」という、一見ポジティブな言葉にすり替えられている。遠く離れた東京ではなく広島にきたからこそ忘れかけていた戦争の悲劇を肌で感じる事ができました。

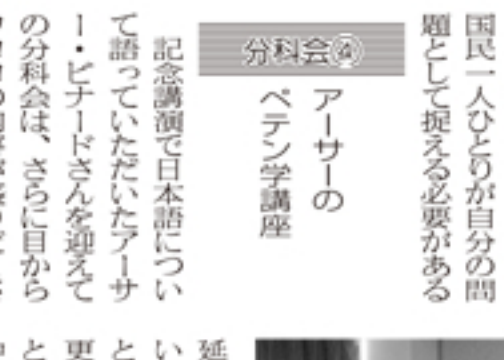
元リクルート社員でフリーキャスターに転身、広島ホームテレビでもキャスターを務めた成田万寿美さんにお話を伺いました。

「笑声(えこえ)力」とは、人を笑顔にする声のこと。言葉は飾れるが声は嘘をつけない」ということで、いかに相手に良い印象を与える声を出すか、



分科会② 成田万寿美さん

「おはようございます」と言い終わらないうちにパソコンの画面に目標を戻してしまふことありますよね? クッとこらえてプ



分科会⑤ 高橋信雄さん

「被ばく前後の爆心地を再現したパノラマや原子爆弾の模型の前で、原爆とはどんなものなのか? 北朝鮮の濃縮ウランのニュースを世界が注視するわけなどを伺うと、まさにあの日に起因する様々な問題が目の前に立ちあがってくるようだった。『被ばく』を生々しく体感する本館では、一

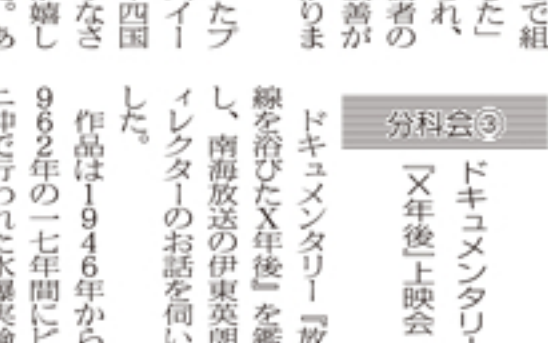
「いつまでもあると思うな!」をテーマにした講演。成田万寿美さんが朗読する「原子爆弾の被害者」の詩集「さかしてはいます」を、笑声力「の講師・成田万寿美さんが朗読する」という印象的な演出で記念講演は始まりました。

アーサーさんは、米国籍生まれ広島在住歴二十四年の詩人。原爆を題材にしたラジオやテレビ番組で二度のギヤクシー賞に輝いています。言葉について人一倍のこだわりを持つアーサーさんが、今回のテーマである「平和の尊厳」を、言葉」という切り口で我々に語ってくれました。

「『ピカ』を使うなら、責任をも引き受けること」自分のこととして考えているかどうか。加害者の立場にならないこと。原爆についても然り、昨今は「再稼働」ではなく「運転再開」という、一見ポジティブな言葉にすり替えられている。遠く離れた東京ではなく広島にきたからこそ忘れかけていた戦争の悲劇を肌で感じる事ができました。

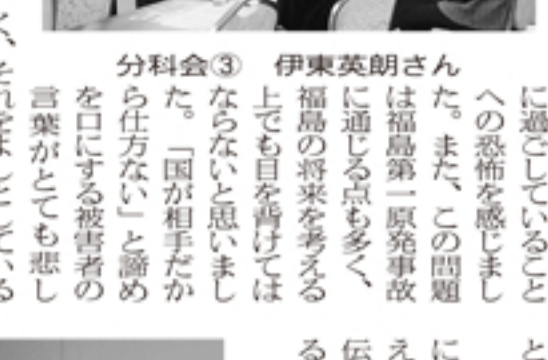
元リクルート社員でフリーキャスターに転身、広島ホームテレビでもキャスターを務めた成田万寿美さんにお話を伺いました。

「笑声(えこえ)力」とは、人を笑顔にする声のこと。言葉は飾れるが声は嘘をつけない」ということで、いかに相手に良い印象を与える声を出すか、



分科会② 成田万寿美さん

「おはようございます」と言い終わらないうちにパソコンの画面に目標を戻してしまふことありますよね? クッとこらえてプ



分科会⑤ 高橋信雄さん

「被ばく前後の爆心地を再現したパノラマや原子爆弾の模型の前で、原爆とはどんなものなのか? 北朝鮮の濃縮ウランのニュースを世界が注視するわけなどを伺うと、まさにあの日に起因する様々な問題が目の前に立ちあがってくるようだった。『被ばく』を生々しく体感する本館では、一

女性をつどい 交流会

今年の交流会は、とてもアットホームな雰囲気、参加者同士が密接に濃い話をできた会になりました。分科会ごとに分かれたテーブルでは、講師の先生方も交えて盛り上がりました。女性ならではの不妊の悩みなども話題になりました。放送局で働きながら子育てをすることももちろん大変ですが、結婚をして子

女性をつどい 平和公園周辺 碑めぐりツアー

平和公園周辺慰霊碑めぐりはナビゲーターの高橋信雄さんの案内でおよそ三〇名の参加がありました。今回初めて広島を訪れた私は、平和公園周辺にある原爆碑に美しい花々が手向けられていることに驚くとともに、今まで自分自身が原爆投下の意味を、実感を持って熟慮してこなかったことに恥ずかしくなりました。



OPツアー・碑めぐり

原爆の投下を、どこか歴史のある時を振り返っているような感覚がありました。しかし、碑めぐりを体験して分かったのです。「ヒロシマは死んでいない」これは生きている問題なのだ。原爆でじくなった方を

どもがほしいと思っても簡単に妊娠できるわけではなく、不妊治療に通う人が少なくありません。女性は出産にタイムリミットがありますが、仕事で脂がのって

いるときと出産適期が同時期であるというジレンマがあります。また、職場で育児休暇をとる人が重なることを配慮していると、妊娠のタイミングがつかみにくいという悩みも聞きました。不妊治療の悩み、産みの悩みの悩みなどは、今後女性協が取組むべき問題だと感じました。

また、沖縄からの元気な参加者が多く、是非沖縄での女性をつどいを実現させたいというみなさんの期待の声があちこちで聞かれました。託児ですっかり仲良しになった子どもたちも、交流会と一緒に楽しんでいました。大きなお子さんが小さい子の面倒をみて一緒に遊んであげる、ほほえましい光景が見られたつどいらしい交流会となりました。

(関東地連・岸田花子)

女の慰霊碑の説明を聞いていると二人の年輩の女性が現れ「みなさん、よくお参りくださいました」と深くお話を伺うと女性は、当時この学校に通い原爆を免れた同級生だとおっしゃいました。「毎週日曜日は必ずここに参るのが決まりでね」と片手にキョウチクトウの花を摘み、碑に供える姿を見て、私は彼女が戦後七〇年の人生に原爆の瞬間がどれほど大きな爪跡を残したのか、お気持ちを察したかったのですが、到底できることではありませんでした。

女性をつどい 実行委員会 から

梅雨時にもかかわらず、お天気に恵まれ無事に予定通りの日程を終えることができました。たくさんの方に広島にお越しいただき本



実行委員よりあいさつ

また開催にあたりご協力いただいた方々へ実行委員一同、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。来年は関東地連さんにお世話になります。どうぞよろしくお願いたします！

(テレビ新広島労組・木村洋子)

女性協拡大常任委員会

13年度総括と来期へ向けて

梅雨明けを間近に控えた7月5日(土)、13時より港区のフジテレビ本社において「民放労連女性協拡大常任委員会」が開かれました。

今回は二日目のオブショナルツアーはあるものの一日開催のプログラムでの実施とさせていただきます。時間が短くなった分、皆様にご満足いただけるような中身のつまった内容になるように、知恵を絞るから試行錯誤で準備をいたしました。

会議には全国の地連の女性協メンバー一〇人が参加し、各地連、単組の春夏の成果について、また6月に行われた「全国女性のつどい」の総括と来期の開催に向けた日程調整などについて報告や積極的な議論が交わされました。

「全国女性のつどい」のまとめでは、「アーサー・ビナードさんの記念講演、高橋信雄さんの平和記念資料館、記念碑めぐりのツアーが非常に好評で広島で開催された意味があった」と評価の一方で、「時間配分

が難しかった。女性が一同に集う意味を問う上で「分科会を五つにしたのが適正だったのか、交流会で会場が分かれてしまったのは良かったのか、事前の人数予測、調整が大変だった」など、課題も残りました。

また、南海放送のディレクターが制作したドキュメンタリー「X年後」が非常に素晴らしい、今後女性独自のネットワークを使って上映会を企画してみたいのか、と提案も出ました。

会議がいちばん盛り上がったのは、テレビ東京が2014年の春闘で「ジョブ・リターン窓口」として再雇用制度を受け入れる体制があるという回答を得たという話題でした。また、

他局の状況としては、NHKでは2009年4月から「キャリアリターン制度」が導入され、その制度を利用して実際に再雇用された実例があることや日本テレビでも2007年から再雇用制度を開始したことなどが紹介されました。

このほか、現場系の女性社員の結婚・出産後の働き方、育児時間の引き上げ、女性の転勤の是非、正社員雇用人数(特に女性)の変動、育児十介護を抱える社員の働き方、会社の制度などについて多岐にわたる話し合いが行われました。

今後の動きとしては、「全国女性のつどい」が来年5月30日(土)、31日(日)の二日間の日程で東京で開催されることになり、早速準備が進められています。



来期に向けて始動